

「たくさんの感謝」

皆様こんにちは。とうとう最後のレポートとなりました。この埼玉県・オハイオ州スカラシップ〈総合系〉のプログラムでは、普通の留学ではなく、親善大使として役割のある特別な体験をさせていただきました。他では得られない貴重な経験を通して、大きく成長することが出来ました。何よりも大きく自分を変えたのは、ゼロから新たに人間関係を作っていく経験です。

日本にいれば、家族・友人がいて、クラス・サークル・アルバイトと居場所があります。一方、ここフィンドレーに来た時、自分には何もありませんでした。同じく埼玉県から派遣されている、機械工学系の 2 人を除いて知り合いはおらず、周囲に与えられる特別なスキルも持っていませんでした。そうした不安の中で、授業で友達を作り、部活動に入り、アクティビティに参加しと、少しずつ人間関係の輪を広げていきました。時には上手くいかないこともありました。こうした経験が、自分の視野を広げ、価値観に多様性をもたらしてくれました。こんな素敵な経験をさせてくれた、埼玉とフィンドレーの皆さんには感謝してもしきれません。日本に帰ったのち、学ばせてもらったことを、埼玉に恩返ししていければと思います。

「ルームメイト」

自分にとってのフィンドレーでの一番の宝物は、ここで出来た友人です。中でもルームメイトのサマーが一番の親友となりました。初めて会った日に、寮の案内をしてもらい、洗濯機の場所や、学食の使い方を教えてもらった日が、昨日の様に思えます。部屋の掃除や、電気を消す時間でもめたこともありますが、今では良い思い出です。文化の違う日本人と暮らすことは、時に彼女にとってストレスでもあったと思います。それでも優



サマー(ルームメイト)とお母さん

しく接してくれた彼女の様に、日本に帰ってから、周囲に接していきたいと思います。

「アーミッシュ」

オハイオ州には大きなアーミッシュ居住区があります。アーミッシュとは、電気などの文明品を使わず、昔ながらの生活をする、ドイツ系の移民です。独立したコミュニティを持っており、教育や、家の建築も、地域で協力し合い行われています。写真を撮ってはいけないとのことで、皆様に村の中の写真をお見せ出来ないのですが、村の中は当然の様に馬車が通っており、まるでおとぎの国に来たようでした。



居住区から車で15分の町

印象に残っていることは、アーミッシュは周囲に対して非常に友好的だということです。自らのコミュニティを守るために排他的にならざるを得ないのではと思っておりましたが、村の中では話かけてくれたり、手を振ってくれたりとフレンドリーな方たちでした。聞いた話によれば、村の若者が文明社会の仲間入りを止めることもなければ、逆にアーミッシュの仲間に入ることを拒みもしないとのことでした。そうした寛大さが、今もアメリカという文明大国で、小さなコミュニティを守っていける秘訣なのかなと思いました。